

重点課題②生活習慣によるがんの予防と早期発見の取組

取組名 (事業名)	取組(予定)内容	取組(実績)内容	課題	今後の取組	該当計画		
					第2次健康増進計画	第2次歯科保健計画	第3次食育推進計画
がん検診事業(啓発を含む)	肺、胃、大腸、前立腺、乳、子宮頸がん検診を実施。健診・検診日程表の配付のほか、市LINEにて周知するほか、ホームページに具体的でわかりやすいがん検診の記事を掲載し周知する。	5月号の広報に合わせて、1年間の健診・検診日程表を全世帯に配布した。また、市の公式LINEにおいて、希望者に対し、翌月・翌々月の健診日程を通知した。	がん検診への関心が低い方への啓発が難しく、まず関心を持ってもらう必要がある。	引き続き、効果的な啓発方法を考え、取り組んでいきたい。	○		
精密検査対象者への受診勧奨	がん検診を受診し、至急精密検査が必要な対象者を早期に受診につなげるため、保健師が訪問・面接等で受診勧奨を行う。	保健師が至急精密検査の対象者宅を訪問し、受診を促した。その後、受診確認を行い、必要に応じて療養の相談に応じたり、関係機関の支援実施につないだ。	直接会って声掛けをすることで、ほとんどの方が受診につながっている。今後も受診につながるようにしていく必要がある。	継続して受診を促していく。	○		
若い世代への子宮頸がん検診周知	1歳6か月児健診受診者、保育園・認定こども園・幼稚園の保護者、子育て支援室利用者に対し、子宮がん検診の受診勧奨チラシを配布する。	1歳6か月児健診時にチラシを配布した。また、次年度の検診希望調査の時期にあわせて、2月に、全保育園、認定こども園、幼稚園の保護者向けにチラシを配布した。	チラシの配布であるため、保護者の反応がどのようなものか、受診行動に結びついたかは不明である。ただし、受診率の低い世代であり、継続した周知が必要であり、チラシの活用方法を検討する。	乳幼児健診においては、保護者に直接話ができる機会なので、がん検診について話題にし、検診の受診を促していく。令和5年(2023年)3月からは3歳児健診の保護者向けにも子宮頸がん検診のチラシ配付を開始する。	○		
広報かしわざきへの記事掲載	広報かしわざき5月号の特集記事にて「柏崎市で、がんとともに生きる」をテーマに、がん経験者や、市内の緩和ケア認定看護師、がん看護専門看護師の声を紹介し、がん検診受診を呼びかける記事を掲載する。	5月号の広報に全6ページの特集記事を掲載した。読者からの反響があり、がん当事者からは「このような記事を作ってもらい本当にありがたい」と電話で伝えられた。記事中でがん経験者への相談も募ったところ、2人が相談につながった。	がん当事者は悩みを抱えており、市がこのような広報をすることが求められているという課題があることが分かった。	継続した広報が重要であると考えられる。特に市内の病院や医院でのがん療養の取組など、実践されていることをより周知することで、がんになっても柏崎市で安心して暮らしていけるよう、具体的な情報を周知していきたい。	○		
学校へのがん啓発媒体の提供	市内の小中高校に対して、がん検診の現状やがん予防についての資料を提供し、学校での授業や活動に活用してもらえるように働きかける。	市内の小中高校において、がん啓発媒体の利用希望・実績は無かった。	小中学校の学習指導要領に基づき、がん教育が行われているが、その中で市の資料は使われていない現状がある。	関係する学校教育課や各高校などと連携し、より積極的にアピールしていく。	○	○	○
がんサポートセミナー	がんになっても住みやすい柏崎地域となるよう、柏崎総合医療センター、国立病院機構新潟病院、がん経験者とともに市内のがん患者が交流できる場所・機会をつくる。	8月3日(土)に柏崎総合医療センターにおいて、がんサポートセミナーを実施し、19人が参加した。勝井丈美先生を講師に、語り合いを中心に行った。	柏崎地域にはがん当事者が集まれる場が少なく、このような場を設けたが、がん当事者や家族は集まれる場があることを望んでいるという課題が分かった。	今後もこのような場を定期的に設けていくことが必要である。今後は医療センターが「がんサポートセミナー」として、継続実施していく方針となった。(第2回は1月21日(土)に開催)	○		